



このような痛ましい事故は日本でも、平成 13 年 7 月 21 日、兵庫県明石市の花火大会で発生していることは皆さんの脳裏にも残っておみえのことと思います。

この歩道橋事故では幼い子供を含め 11 名の尊い命が失われました。この事故により、警察の警備計画の不備や警備会社の対応などが問題となり、警備業界ではこの事故を教訓として平成 17 年に警備員指導教育責任者制度や検定合格警備員配置基準の改正等を内容とした、警備業法等が改正されました。

このような、雑踏事故は大規模イベントなどの他、災害時における避難などでも発生する恐れがあると考えられることから、自主防災における避難経路やボトルネックとなる箇所などを確認し一か所に人流が集中することのないように誘導できる経路を確保し、安全な流れを作り出すことが重要ではないかと考えます。

また、電気・ガス・水道等の重要な社会インフラが使えないような大規模災害や大規模障害が発生した場合についても複数の代替手段や対策を日頃から準備することも肝要です。とるべき対応について優先順位をつける必要もあります。全てが短時間に可能ではありません。人的にも物的にも限られた中で対応することが求められます。

本ネットワークに参画し、参画団体間の顔の見える関係の有益性、相互支援・相互協力の必要性を痛感しています。

当協会では警備員や警備業者に対する各種教育・研修の場や災害支援協力隊の訓練等を通じて、今後もこのような事態が発生した際、的確な警備業務が実施できるよう努めてまいります。



<一般社団法人 愛知県警備業協会 URL>

<http://www.aikeikyo.jp/>

---

## 2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

---

今回掲載するイベント等はありません。

---

## 3. 編集後記 (事務局・協力団体のひとこと)

---

本ネットワークの事務局をさせていただいており、併せて毎度、会の司会進行を担当させていただいております名古屋都市センターの[ ]です。

今年度から当センターに配属となり、特に年度当初は会の取り回しが上手くできずに、皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

当センターは名古屋のまちづくりに関するシンクタンクとして、名古屋市の施策の半歩先を行く研究、情報収集、人材育成をする機関です。

私も研究員として、日々そうした研究の一端を担っておりますが、特にその中でも”防災”を担当することになり、これまでの専門分野とは重なることが少なく、日々勉強に追われているところです。

本ネットワークにおいては、実際に発生している様々な災害事象について、各団体様の具体的な取組みをプレゼンテーションやワークショップを通じて、通常は聞くことのできないレベルのお話をお聞きすることができ、大変貴重な機会であると捉えているところです。

当センターは事務局のため、こちらから何かを発信する機会が少ないのですが、この機会に当センターが名古屋大学減災連携研究センターと共同で開発したまちづくり情報システム ISM (イズム) をご紹介させていただけれ

ばと思います。

<http://nui-mdc.jp/>

上記アドレスから入り、HP のブラウザ上で動作するシステムで、地理情報システム（GIS）を活用し、分散している都市計画や減災関連の地図情報を1つに集約したもので、2種類の地図を選択し、2画面で対比させたり、1画面に重ね合わせることでできる、視覚的にわかりやすいシステムとなっております。

データは名古屋市内限定となってしまいますが、各団体様、また個社に戻られた際に、事業所がある地域の災害リスクを知るためのツールとして、BCPの策定や見直しの際にご活用いただければ幸いです。

（もちろん、ご家族や友人を守るためのツールとしても是非一度ご覧になっていただければと思います。）

当センターではこのISMについて、毎年様々な機会をとらえて、社会人、大学生、中学生、また一般市民の方々向けにシステム活用の普及活動をしており、声をかけていただければ、団体様、個社様に伺って、説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

最後に、今年度は本ネットワークでは共同宣言のとりまとめに向けて事務局として邁進してまいりますので、今後とも引き続き、皆様の多大なご協力の程をよろしく願いいたします。

<公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター URL>

<https://www.nup.or.jp/nui/>

